

我が国における保護上重要な植物種および植物群落の研究委員会植物種分科会(1989)我が国における保護上重要な植物種の現状、

日本自然保護協会.
鷲谷いづみ・矢原徹一(1996)保全生態学入門, 文一総合出版.

〔植物ニュース〕

丸子町のシダレグリ

白井幸長

シダレグリの自生地は丸子町西内浄化センター脇の山道を川に沿って約1kmほど登った東側、通称朝日山の北斜面にある。平成7年8月2日、山の所有者である滝沢正一氏の案内でシダレグリの自生地を調査したところ、写真のように枯木1本と標識があるのみで、その周囲や一帯にはシダレグリの自生はみられなかった。大正9年に国の天然記念物に指定された当初は、樹高5m以上の古木が群生していたと伝えられているが、その後、天敵の「クリタマバチ」の被害にあうなどして次第に枯れ、絶滅したものと思われます。なお丸子町郷土博物館の庭にシダレグリ1本(樹高約1.1m、直径約5cm)が植えられ保護されています。しかしこれは辰野町小野から移植したものである。ブナ科の落葉高木であるシダレグリは、普通のクリが突然変異によってシダレ性をあらわしたもので、日本特産の変種である。果実は小さくて食用にはならない。シダレグリはフォッサマグナ地域に限って自生する植物の一つといわれています。岐阜県にも自生地はあるが、長野県上伊那郡辰野町小野の天狗原には、幹囲1m以上のものだけでも60-70本の自生が見られ特に有名である。



写真1. 丸子町郷土博物館庭のシダレグリ



写真2. シダレグリ自生地